“ Cyberstalking”

～情報通信技術を用いたストーキング～

（富山大学保健管理センター）

竹　澤　みどり

近年、情報通信技術（Information Communication Technology: ICT）の進歩は目覚ましく、日本においても急速に普及している。総務省（2013）によると、2012 年末の「携帯電話・PHS」（スマートフォンを含む）及び「パソコン」の普及率はそれぞれ 94.5%、75.8%であり、インターネット利用の人口普及率は 79.5%となり、6 割以上の人が「毎日少なくとも 1 回以上」利用しているのが現状である。また、42.9%の人が SNS、ブログ、Twitter、ネット上の掲示板などのソーシャルメディアを利用しており、若年層ほど利用率が高く、複数利用者が多くなっている（総務省、2011）。つまり、若年層を中心に対面を必要としないソーシャルメディアを介したコミュニケーションが増加し、重要な位置を占めていると言える。ソーシャルメディアは「人と人とを結びつけ、そのきずなを再生、形成し、（中略）実社会に対してプラスの影響を与えることが期待され」（総務省、2011）、調査結果からも様々な人との交流が増えたり、人と人との協働を媒介し、諸問題の解決につながるなどのプラスの影響を与えていることが示されている（総務省、2011）。しかし、一方で様々な新たな脅威も広まりつつある。ソーシャルメディアを介したコミュニケーションは、対面でのコミュニケーションとは異なる特徴を持つことが指摘されている（大坊、2002）。コンピューターを介したコミュニケーション（computer-mediated communication：以下 CMC）には攻撃的な言動が生起しやすいという特徴があり（佐藤・日比野・吉田、2010；佐藤・吉田、2008）、新しい攻撃手段としてそのような媒体が用いられつつある。

ICT を用いた問題行為の一つに Cyberstalking がある。Southworth, Finn, Dawson, Frasser & Tucker（2007）は先行研究を概観し、Cyberstalking は「電子メールやその他のコンピューターを用いたコミュニケーションを介した、繰り返される恐怖や嫌がらせであり、被害者の安全を脅かし悩ませる行為」としている。また、Lyndon, Bonds-Raacke & Cratty（2011）は特に Facebook 上での元交際相手からのつきまとい行為に焦点を当てて調査している。彼らは、

つきまとい行為として、より消極的で、あいまいなやり方で元交際相手に関する写真を調べたり、コメントを投稿したりする“ ひそかな挑発行為（covert provocation)”、意図的に公の場で傷つけようとする“ 公のハラスメント（public harassment)”、元交際相手やその新しい交際相手を挑発する“ 挑発行為(Venting)”の３タイプの行為を見出している。さらに、Finn(2004)は問題となる ICT の使用として、「繰り返し、怖がらせたり、侮辱したり、傷つけるようなメッセージを送る」、「相手のメール等のアカウントをチェックする」、「何度も相手の携帯に電話する」、「執拗にテキストメッセージを送る」、「相手の行動を監視するために相手の SNS をチェックする」、「GPS 機能等を用いて相手の居場所を監視する」、「ウェブカメラを用いて相手の行動を監視する」、「スパイウェアを用いて相手のパソコンを監視する」、「相手のアカウントのパスワードを知らせるよう強要する」などとしている。つまり、Cyberstalking とは主に「相手を傷つけたり、怖がらせるようなメッセージの送信およびインターネット上に載せる行為」、「執拗に携帯電話をかけてきたりメッセージを送ってきたりする行為」、「相手の言動を監視する行為」を行うことといえる。ICT などの技術の発展に伴い、相手を怖がらせたり、付きまとったり、監視したり、コントロールするために容易に ICT が用いられるようになってきていることが指摘されている（Southworth et al., 2007)。さらに、ストーキング加害者は被害者の配偶者・交際相手や元配偶者・元交際相手である場合が多く（Bjerregaard, 2000; Tjaden & Thoennes, 2000; Tjaden & Thoennes,1998)、そうでない場合に比べてより危険性が高いという指摘もある（Palarea, Zona, Lane & Langhinrichsen-Rohling, 1999)。日本においても、警察庁（2014）によると加害者の６割が配偶者や交際相手（元交際相手も含む）であることが示されている。同様に、Cyberstalking においても元交際相手からなされる場合が多い（Alexy, Burgess, Baker & Smoyak, 2005)。

同じく ICT を用いた行為で、近年、深刻化している問題に“ ネットいじめ” がある。“ ネットいじめ” は場所や時間を問わず行うことができることが特徴の一つであり、そのため持続的ないじめ行為がもたらす影響は深刻であるとされている（Tokunaga, 2010))。さらに、加害側は被害者の情緒的な反応を直接見ることができないため、自身の行った行為が相手にどのように受け取られ、どのような影響を与えたのかを知ることができないという特徴を持ち（Kowalski & Limber, 2007)、従来の対面でのいじめに比べてネットいじめはあまり深刻にとらえられておらず、現実味が乏しいのではないかという指摘もある (Pornari & Wood, 2010)。同様のことは、Cyberstalking においても当てはまり、自身の行為を重大なものとはとらえずに、軽い気持ちで安易に行動に移されてしまう危険が高いと考えられる。つまり、自分でも知らないうちに Cyberstalking の加害者となってしまっているということも起こりうるのである。

時には、自身の行動を振り返ったり、される側がどのように感じるのかを想像してみたり（その場合には行為を行う人が自分よりも筋力や体型などで強い人の場合、自分よりも立場的に上の人であった場合はどうだろうと想像してみることも必要かもしれない)、自身の行為について周りの人に意見を求めたりする機会を作ることも重要である。このようにして、ICT の利点を生かしたより良いコミュニケーションを目指していきたいものである。

引用文献

Alexy, M. E., Burgess, A. W., Baker, T. & Smoyak, S. A. 2005 Perceptions of Cyberstalking Among College Students. *Brief Treatment and Crisis Intervention*, **5**, 279-289.

Bjerregaard, B. 2000 An Empirical Study of Stalking. *Victimization. Violence and Victims*, **15**, 389-406.Burke, S. C., Wallen, M., Vail-Smith, K. & Knox, D. 2011 Using technology to control intimate partners: An exploratory study of college undergraduates. *Computers in Human Behavior*, **27**, 1162-1167.

Finn, J. 2004 A survey of online harassment at a university campus. *Journal of Interpersonal Violence*, **19**, 468-483.

警察庁　2014　平成 25 年度中のストーカー事案及び配偶者からの暴力事案の対応状況について　＜http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/stalker/25DV.pdf＞（2014 年 3 月 25 日）

Kowalski, R.M. & Limber, S.P. 2007 Electronic Bullying Among Middle School Students *Journal of Adolescent Health*, **41**, S22-S30.

Lyndon, A., Bonds-Raacke, J. & Cratty, A. D. 2011 College Students' Facebook Stalking of Ex-Partners *Cyberpsycology, Behavior, and Social Networking*, **14**, 711-716.

Melander, L. A. 2010 College Students' Perceptions of Intimate Partner Cyber Harassment. *Cyberpsychology, Behavior, and Social Networking*, **13**, 263-268.

大坊　郁夫　2002　ネットワーク・コミュニケーションにおける対人関係の特徴　対人社会心理学研究、**2**、1-14.

Palarea, R. E., Zona, M. A., Lane, J. C & Langhinrichsen-Rohling 1999 The Dangerous Nature of Intimate Relationship Stalking: Threats, Violence, and Associated Risk Factors. *Behavioral Sciences and the Law*, **17**, 269-283.

Pornari, C. D. & Wood, J. 2010 Peer and Cyber Aggression in Secondary School Students: The Role of Moral Disengagement, Hostile Attribution Bias, and Outcome Expectancies. *Aggressive*

Behavior, **36**, 81-94.

佐藤広英・日比野桂・吉田富二雄　2010　CMC（Computer-Mediated Communication）が攻撃性に及ぼす効果　筑波大学心理学研究、**39**、35-43.

佐藤広英・吉田富二雄　2008　CMC が脱抑制的行動および自己意識に及ぼす効果　筑波大学心理学研究、**36**、1-9.

総務省　2013　インターネットの利用動向　平成 25 年版情報通信白書　331-346.＜http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h25/pdf/n4300000.pdf＞（2013 年 11 月 20 日）

総務省　2011　ソーシャルメディアの可能性と課題　平成 23 年版情報通信白書　155-181.＜http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h23/pdf/n3020000.pdf＞（2013 年 11 月 20 日）

Southworth, C., Finn, J., Dawson, S., Fraser, C. & Tucker, S. 2007 Intimate Partner Violence, Technology, and Stalking *Violence Against Women*, **13**, 842-856.

Tjaden, P. & Thoennes, N. 2000 *Full Report of the Prevalence, Incidence, and Consequences of Violence Against Women: Findings From the National Violence Against Women Survey.* Washington, DC: National Institute of Justice and the Center for Disease Control and Prevention

Tjaden, P. & Thoennes, N. 1998 *Stalking in America: Findings From the National Violence Against Women Survey.* Washington, DC: National Institute of Justice and the Center for Disease Control and Prevention.

Tokunaga, R. S. 2010 Following you home from school: A critical review and synthesis of research on cyberbullying victimization. *Computers in Human Behavior*, **26**, 277-287.